

【背景と目指す姿】

- 野木町は、耕地面積の約8割が水田を占めており、米麦生産を主とした経営体が多い町となっている。その中でも川田地区は、水田の基盤整備が昨年度完了したが、水稻依存の傾向が強い。
- その一方で、元気ファーマーズ野木は当該地区で露地野菜の生産振興に積極的に取り組んでおり、水稻依存からの脱却を目指した土地利用型園芸の経営を目指しており、基盤整備農地等を活用しながら露地野菜を中心とした園芸生産の拡大を目指す。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):6.5ha ⇒ 目標(令和2(2020)年度):11.8ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関団体と連携し地区で農業を行う担い手を確保し、随時支援、アドバイスを実施 ・新農業資材の試験による出荷期間の拡大や生産性向上 ・農地中間管理事業等の活用により農地集積を進め、効率的な輪作体系の構築や畦畔除去による区画拡大を実施
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・播種機、移植機、乗用管理機の導入による作業省力化 ・ほ場の区画拡大による機械の利用効率向上 ・機械の共同利用や労働力の貸借 ・ハローワークや求人広告等の活用による労働力の確保
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・JA生産組織の行う、加工・業務向け契約取引を活用する。 ・商談会等に参加し販路拡大に向けた知見を高める



レタス生産ほ場